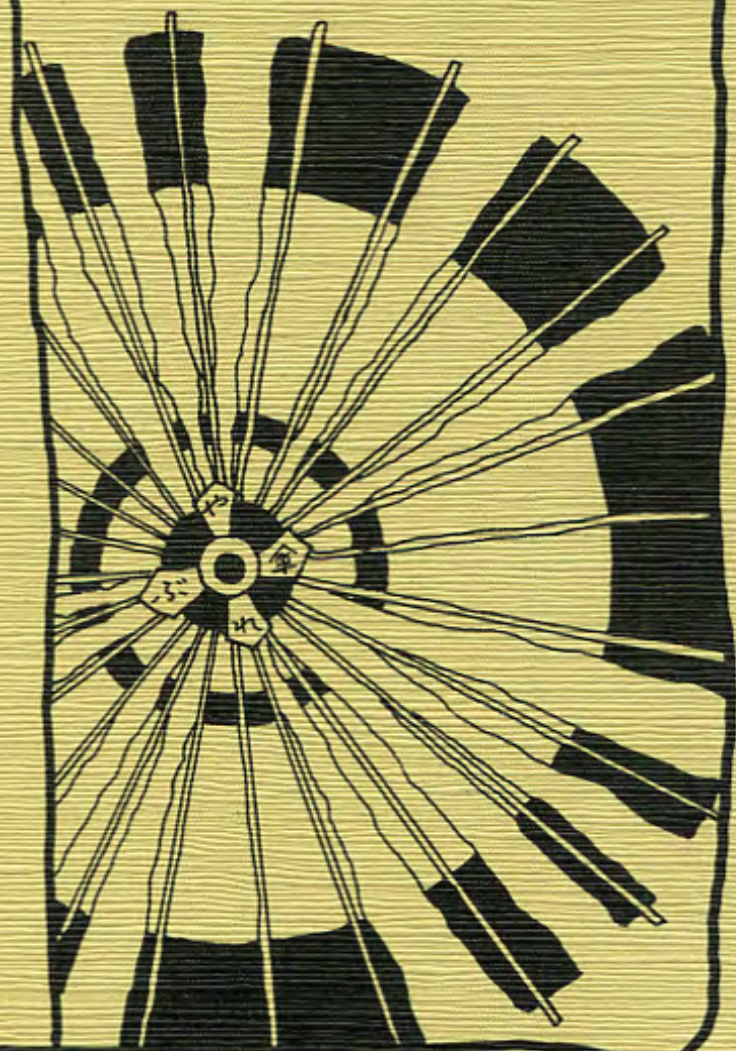


やぶれ傘



七十二号

二〇二三年四月

あたたかや蛇籠の石に腰下ろし	根橋宏次
春早し畠に測量用の棒	小川 滋
八つ橋の真中に水を見る日永	大島英昭
鰐口にはほこり積りし花の寺	廣瀬雅男
ふた閉づる力の残る栄螺焼く	きくちきみえ
白梅や黒門町の名は消えて	瀬島洒望
黄砂降る空より鷗滑り来る	藤井美晴
陽炎や中宮寺より野に出でて	丑久保 勲
走り根に座すしばらくは花の昼	安藤久美子
雛段の角に紙雛飾りけり	國保八江
手水鉢の水ひかり春揺らめけり	有賀昌子
雲水の深き一礼春浅し	白石正躬
カントリー流るるパン屋春隣	渡邊孝彦
山黒くミモザ明るきコトルかな	松村光典
若き母手はブランコの子に預け	久世孝雄

抄 集 句 傘 れ ぶ や

大 崎 紀 夫 選

ぶらんこを飛び降りて行く犬のもと	小山陽子
七草の香り広がる朝餉かな	森美佐子
冬滝のこゑ渡りくる陸奥の夜	秋山信行
春の日は野辺に捨てある火鉢にも	天野美登里
初鶯未だ冷たきドアのノブ	岩藤礼子
日脚伸ぶ影絵の如く葉が揺れて	枝みや子
対岸へ渡る道なく枯葎	奥田温子
演奏にいつか手拍子花ミモザ	上林富子
死ぬ話産まるる話梅一輪	菊地葉子
若布買ふ磯の香りも汐風も	小池一司
雪模様如何かとカーテン開けてをく	小巻若菜
カレー屋の粗塗り壁へ冬帽子	齋藤 博
うららかや船頭ひとり船に居て	佐竹千代
神官の浅沓ひかる淑気かな	貫井照子
春疾風孫の一本背負ひかな	萩原溪人

花菜風

安藤久美子

雉鳩を追ふ子へ春の嵐かな
薄氷や郵便受けのぎゆう詰めに
プロペラ機蒲公英の野へ着陸す
海中に石蓴の揺れの見え隠れ
もづく酢の喉を通りし外は闇
飛沫たつ荒磯波に鹿尾菜かな
三越の獅子のブロンズ黄砂降る
寸止めのタイヤの先の犬ふぐり
走り根に座すしばらくは花の屋
花菜風海のにほひをすこし混ぜ

紙
雛

國保八江

冬萌や岸に干さるる艇と櫂
縁側の足踏みミシン春の塵
薄氷の昔味噌屋の大釜に
雛段の角に紙雛飾りけり
宿木の芽吹きの色となりけり
なな里てふ里の農家のしだれ梅
土手外の屋敷の跡の梅白し
買ひ替へし釜で炊く飯花菜漬
建て売りは三階建てや霾れり
花見舟ゆつくり向きを変へにけり

手水鉢

有賀昌子

打ちつけて味噌玉甕に寒仕込み
語り部は炉端で大き嚏して
岩清水滴りながらこほりけり
根本中堂の柱の疵や春寒し
根上りの松に斑雪のありにけり
山笑ふラジコンのへり旋回し
手水鉢の水ひかり春揺らめけり
まんさくの天水桶に散りにけり
池尻へ水脈をひきゆく残る鴨
紋白蝶ここは港の見える丘

雲 水

白石正躬

羅漢さま頭の雪をそのままに
左肩より右肩にくる寒さかな
渡し発つ音に川辺の春動く
雲水の深き一礼春浅し
飴かじりつつながめぬる春の雪
たづぬるに付き合ひほどの梅の数
畑焼きの匂ひを残す野良着かな
残る鴨のぼるともなく川上る
花ぐもり垣間見えたる山の空
おぼろ夜の車の鍵の鈴の音

牡丹雪

渡邊孝彦

学園のフェンスの外に仏の座
カントリー流るるパン屋春隣
春しぐれ川面に黒き橋の影
木の芽雨昌平坂は橋くぐり
牡丹雪しづくにかはる靴の先
馬刀葉椎幹の瘤より芽吹きたり
花辛夷脇参道のぬかるみて
春の服乗り換へ駅にどつと出で
囀れり小川の橋にたたずめば
フリスビー低く野を飛ぶ花曇り

日本へ

松村光典

雪の夜はヴィエナの街を飲み歩く
淡雪や細かに街の道記し

麦の芽やまつたひらなるパンノニア

パンノニア||セルビアからハンガリーに至る大平原

春寒しコトルの駅にバスを待ち

コトル||モンテネグロの海の街

山黒くミモザ明るきコトルかな

春なれやアドリア海に波はなく

のつたりと春の眠りのエーゲ海

麦の葉にあをきセルビア後にして

満開の日本の花に迎へらる

露の臺たけのこ山椒食ふべけり

沈丁花

久世孝雄

鍛帳のゆつたり上がる春隣り
朱鷺色のテーブルクロス春立ちぬ
春寒しボタンのほつれ気がつかず
気がかりの梅は閑かに白み初む
春耕のこの一畝になに蒔かん
嫁ぎし娘の電話は長し雛の夜
忘れぬし鉢に赤き芽春日差
春の昼湯気吹きあがる炊飯器
若き母手はブランコの子に預け
この先は行き止まりとや沈丁花

ぶらんこ

小山陽子

ス
ー
プ
掬
ふ
匙
の
丸
み
や
春
の
雪
木
に
凭
れ
作
業
夫
眠
る
春
の
昼
使
は
れ
ぬ
物
干
し
台
に
春
日
差
春
嵐
換
気
扇
ま
た
コ
ン
と
鳴
る
大
小
の
石
で
重
し
の
花
筵
春
雨
に
濡
れ
て
毛
羽
立
つ
鳩
の
胸
目
の
合
ひ
て
逃
げ
る
野
良
猫
花
の
宵
作
業
着
の
並
び
干
さ
る
る
花
の
も
と
乳
母
車
押
し
た
が
る
子
や
花
吹
雪
ぶ
ら
ん
こ
を
飛
び
降
り
て
行
く
犬
の
も
と

春 春 春 窓 立 寒 雪
 一 め の に 春 肥 折
 番 く 野 の 倚 の や の
 吹 や に り 広 ブ 竹
 き 磯 ひ か 紅 場 ル に
 こ に 蠢 知 の 遊 べ の
 ん 蠢 恵 の の 具 リ の
 で く も の 輪 庭 か に
 く も の 増 拾 ひ 知 知 知
 る の 増 拾 ひ 知 知 知
 金 増 拾 ひ 知 知 知
 物 え け り 知 知 知
 屋 て り 知 知 知

松本正生

う 餅 炊 に 残 屠 数
 た 花 き こ り 蘇 へ
 た た ね や た た こ 物 蘇 日
 の の の の の の の の の の
 白 寿 の 義 母 に 雛 か ざ る
 斧 削 り の 黒 き 梁
 飯 に 落 と す や 寒 卵
 文 字 の メ ー ル 日 脚 伸 ぶ
 母 返 す 五 日 か な
 屋 見 知 り の 客 ぼ かり
 母 の 遺 せ し 小 盃

松本善一

種山急曇少春さ
蒔宿坂りし一ざ
きののを日づ番波
て部やのつ隠の
両屋う暮少れキラ
手にやれししラ
の活やくてづ塵キラ
土けく白咲散光
をあり梅香きらり
擦り桃のけし春
りけの花り花の川

三角よね子

春近し赤く大きな月の出て
免許証の更新したり春立つ日
グオーグオーと枝鳴らし行く春嵐
初蝶の影のあそこには昼下がりに
寄り合ふて甲羅干す亀木の芽風
雲ひとつ無き空に映ゆ白木蓮
連翹の枝を地に触れ咲きにけり

村田武

◇ 5月・6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	1日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	25日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	31日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
6月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

5月31日(第5金曜)は5月初連休のNHK教室の振り替え。

6月16日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR京浜東北線北浦和駅改札口。吟行地はさいたま市・見沼。句会場は 浦和駅東口前パルコ10階・浦和コミセン第1集会室。

◎ 連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ